

2

JPVRC 施工部会

2.1 JPVRC の目的と組織

日本圧力容器研究会議（JPVRC；The Japan Pressure Vessel Research Council）は、米国圧力容器研究委員会（PVRC）に対応する国内組織として、国内研究の実施、取りまとめおよび米国との技術交流の実施を目的として1977（昭和52）年に設立され、材料部会（事務局：日本鉄鋼協会）、設計部会（日本高圧力技術協会）および施工部会（日本溶接協会）で構成されている。

JPVRC 施工部会は、(社)日本溶接協会の3部会（溶接棒部会、鉄鋼部会、機械部会）、2委員会（化

学機械溶接研究委員会、規格委員会）のサポートのもとに活動し、これらの部会または委員会の活動のなかで、JPVRCおよび米国PVRCに報告すべき内容の検討と、これらからもたらされた情報のうち施工部会として検討すべき問題の処理を行っている。

また近年はJPVRC、PVRCおよびEPERC（European Pressure Equipment Research Council）の3極協力プロジェクトのサポートについても活動項目として運営することとしていた。

2.2 施工部会の活動（1999年～2008年）

施工部会長は、1999年度から2001年度までは町田 進氏（東京大学名誉教授）が、2002年度から現在にいたるまでは樋口 洵（(株)IHI→(株)IHIテクノソリューションズ）が就任し、2002年度、2003年度および2008年度についてはJPVRCの会長、他年度については副会長を兼任した。

構成する3部会・2委員会のテーマ別の担当はおおよそ以下のように分担している。

- (1) 鉄鋼部会：材料、継手の信頼性評価
- (2) 機械部会：圧力容器、パイプライン
- (3) 溶接棒部会：溶接材料
- (4) 規格委員会：規格、標準化
- (5) 化学機械溶接研究委員会：溶接施工法、製作法

施工部会は、年間3回の連絡会議を開催して各部会・研究委員会の活動状況について情報交換するとともに、JPVRCからの情報にもとづく審議・

検討を行った。なお、施工部会委員は、JPVRC 運営委員会委員を兼任することになっており、運営委員会の活動についても参画している。

施工部会からの活動報告は、他部会の活動報告とともに年間3回開催されるPVRCの会議にPROGRESS REPORTとしてまとめ、報告が行われてきたが、2003年以降PVRCの活動が縮小され、会議の回数も減少し、2007年4月にHoustonにて開催された後、PVRCの会議は開催されていない。

最近のPVRCの活動状況は低迷しており、JPVRCの設置目的の達成が困難な状況になりつつあり、今後、JPVRCの継続について問題化することが懸念される。

同様に欧州のEPERCの活動もEUからの予算の打ち切りで低迷しており、日米欧の3極協力プロジェクトも進捗していない。